



## シリーズあの町この町 ②青ヶ島の牛祭り

全員参加の手作りイベント

恒例の牛祭り(第29回)に参加するため、8月10～11日青ヶ島に行ってきました。八丈町では毎年町長(今回は企業管理者)はじめ、2人の議員と職員1人が参加しています。今回は田村議員と私でした。開会式に続いて午前中は和牛共進会や農水産物の品評会、午後はあしたは早食い競争、力自慢、子ども相撲、大人相撲などが続きます。そして夜はバンド演奏、スポーツチャンバラ、カラオケ大会や島踊りで盛り上がりました。全島民が一堂に会し、まる一日中楽しむ島最大の行事なのです。

今年から主催が村から実行委員会に移り、計画・準備・後片付けが島民ボランティア中心です。すめられていました。参加者がそろって着るTシャツのデザインも毎年公募で決めているそうです。手作り感たっぷりの祭りから、町づくりのためのアイデアをもらいました。そして、暮らしの中に家畜がいる風景がなにより印象的でした。

「青耐」ブランド化で売り上げ増加

青ヶ島では畜産業として黒毛和牛の肥育をしており、人口200人に満たない小さな島に60頭近くもいます。そのうち、畜主自慢の牛が共進会に出されていましたが、体格もよく手入れが行き届いていて、どれも見事な黒毛でした。青ヶ島の名物はこのほかに、「青耐」があります。サツマイモ100%を原料とした焼酎です。ワインのソムリエで有名な田崎真也氏がこの「青耐」を絶賛したこと、一躍ブランドになり売り上げが着実に増えているそうです。「ひんぎやの塩(ひんぎやとは火山地熱の出口を指す)」も、島の地熱を利用した高品質な塩として好評です。また、花卉園芸にも力を入れていて品質も年々向上しているそうです。観光客が少ない島でも、いや少ないからこそ、産業は確実に力をつけていることを実感しました。

いまなお不便な交通アクセス

青ヶ島へのアクセスはヘリコプターと船。9人乗りのヘリが毎日運行しています(現在アイランドコミュニーターが青ヶ島・八丈・御蔵・利島・大島を結んでいる)。また、定期船「還住丸」も日曜を除く毎日就航しています。しかし、その就航率は50%に達していません。また、貨物専用の黒潮丸は週に1回です。したがって、島の人は船を頼らずヘリを利用して移動することが多いのですが、このヘリも濃霧ですぐ欠航します。今回も翌朝のヘリで帰る予定でしたが濃霧のため欠航。私たちは午後三宝港から出航する船で帰ってきました。

この不便さを解消するために、村ではもう1箇所のヘリポートを要望しています。1つの島に2つのヘリポートは認められていないようですが、移動手段が限られた離島では、安定した交通アクセスの確保が急務だと思いました。あらゆる規制を乗り越えて実現してほしいものです。

進む環境・衛生行政

青ヶ島村は合併処理浄化槽設置率100%です。自主的に設置するのは困難なため、設置費用と維持費の大部分を自治体から負担する市町村設置型を採用しているそうです(特定地域生活排水補助事業)。また最近、グリーンセンター、汚泥処理施設も完備しました。全国一小さい自治体といわれる青ヶ島村。小さいからこそ出来ることを懸命に探っている姿勢に感動しながら、一方で、八丈の地勢条件が恵まれていることを思い、八丈では出来ることもっともっとあると思ひながら、東京都最後の秘境をあとにしました。

## 八丈の海をもっときれいに。

日本の海岸には約10万トンの漂着ごみがあるといわれ、その大半がプラスチック類です。地球全体の大きな潮の流れによって中国、韓国からも流れ着きます。今年6月長崎県対馬市の海水浴場で、韓国の学生約150人と市民が今年3回目となるごみ拾いを実施しました。また、海のごみ問題に取り組む日韓のNGOが漂着ごみの共同調査もしたそうです(朝日7月14日)。今、漂着ごみは大きな環境問題となっています。海岸を汚し景観を損なうだけでなく、貴重な野生動物の命を奪うからです。海鳥や海ガメが、釣り糸や網が足などに絡まって動けなくなったり、プラスチックごみを誤食して死亡したりするのです。

八丈でも、漂着ごみは問題になっており、海岸だけでなく海底にもごみがたまっていると聞きます。解決法はただひとつ。ごみを捨てないことです。でも完璧にはいきません。一方で拾うしかないのです。小学校や中学校の総合学習、PTAや婦人会、またダイビング業者や釣り仲間など、多くの住民がボランティアで海岸清掃をしていますと聞きます。それでもなお、海にはごみがたまっていきます。島に住むものとして、もっと多くの住民が海岸清掃に参加してほしいと思います。「捨てない」と「拾う」を同時進行で実行し、貴重な観光資源である八丈の海を私たちの力で守っていききたいものです。

秋のビーチクリーンアップは10月2日(日)を予定しています。秋は海岸のごみ調査です。ぜひ一度参加してみてください。

## 6月議会一般質問(2005年6月日)

### 町の住宅政策の現状と、空き家の有効活用について

(1)町の住宅政策の現状は

**幸子** 町営住宅は十分に機能していますか。使用料は適正ですか。台風や火事などの災害時に、公営住宅としての役割は果たされていますか。

**建設課長** 約400戸ある町営住宅は全世帯の8.4%を占め、他の島に比べて比率は高く十分に機能している。使用料は国の基準に従って設定されており、適正。災害時にも空いていれば優先的に対応している。

**幸子** 町営住宅は十分住民の需要に応じており、使用料も適正ということですが、民間との差はかなりあると思います。また災害のとき提供された住宅も状態が悪かったという声も聞かれています。一時的に、町営住宅の集会所なども活用したらどうでしょうか。

一戸建て住宅は、坂上地区振興策として進められていますが、効果は出ていますか。一戸建て住宅は、誰もが抱く夢であり目標ですが、本来は本人の努力で実現すべきものだと思います。その使用料が民間の賃貸住宅に比べてきわめて安いとすれば、結果として特定の人に家を提供することになり、公平性を欠くこととなります。税金を使った町の事業ですから、慎重であってほしいと思います。したがって、一戸建て住宅については5～6年の使用期限を定め、できるだけ多くの人に利用の機会を提供するべきです。

**建設課長** 一戸建て住宅には低所得者で若い世帯が入っており、坂上振興の効果は上がっている。また、集合住宅と一戸建ての建設費用にほとんど差がない。また、期限を決めた使用は考えていない。

**助役** 一戸建ては過疎地対策。所得が増えれば出るようアドバイスしたり、使用料を上げたりしている。

(2)空き家の有効活用について

**幸子** 住宅政策のひとつとして空き家利用を取り入れる考えはありますか。

**建設課長** 空き家は個人の所有なので、持ち主や借主との関係が難しく、現時点では考えていない。

**幸子** 町営住宅は定住促進を目的としていますが、人口は減る一方。政策だけで人口減少に歯止めをかけることはむずかしいが、八丈町独自の取り組みも探してほしいと思います。島への移住を望んで空き家を探しても、断られることが多いそうです。借り手がいて、借り手が修理し、短期間であり、役場が仲介する、という条件があれば貸すという人はいるはず。住人をなくした家はまたたく間に朽果てます。町が声をかければ、貸した方がいいと思う人も出てくると思います。町が斡旋・仲介をすれば安心という声は貸し手・借り手双方から聞こえてきます。3月議会でも議論された、人口を増やす施策としての新規就労者受け入れには、住居の確保が重要。空き家を利用すれば、地域資源が活用され、地域の景観を損なうことなく集落が活性化してきます。

そこで、定住促進という目的で、民家の活用を考えてほしい。まず、「空き家台帳」をつくることから始めて、次に借りたい人・貸したい人を登録する「空き家バンク」を立ち上げ、八丈に住みたい人を島外から呼びましょう。今、多くの自治体でUターン・ターン推進策として空き家の活用を始めています。国の補助金がつかないなどむずかしい面はあっても、町独自の施策として考えてほしいと思います。

**助役** むずかしい点もあるが、空き家を放置しておくのは防災上も問題なので、空き家調査は今後進めていきたい。また、新規就労者のためという目的がはっきりすれば農業住宅として活用できる道はある。

## 国保運営協議会ってなあに？

国保運営協議会(国民健康保険運営協議会の略)は、国保税(国民健康保険税の略)やそれに関連する諸事項について審議する委員会。保険医または保険薬剤師の代表4名、被保険者の代表4名、公益を代表する4名(議員)の計12名で構成されています。私もこの会の委員です。

この委員会でいつも問題になるのが、国保税の滞納。滞納額は積み重ねて現在1億2500万、短期滞納は3～6ヶ月の「短期保険証」が出され、さらに滞納し続けている人には、短期保険証の代わりに「被保険者資格証明書」が交付されることとなります。徴収率が下がると調整交付金が減額されますから、滞納は町にとって大きな負担です。

町は解決策として、滞納分を先に納めてもらうのではなく、現年度から納入してもらい、徐々に前年度、前前年度分を納めるよう指導することになりました。また、現行の4期で納める方法では1期あたりの金額が大きくなるので、他の自治体の徴収方法にならって、今年度からは7月から2月までの8回に分けて納入できることになりました。

滞納の理由としては、徴収方法や不況の影響などがあげられますが、国保税そのものが高いう指摘もあります。介護保険を含めた国保は、八丈町の場合一人平均年額7万円を超えます。家族が増えれば、家計への負担はかなりのもの。町の場合、早期発見・早期治療に政策転換するのが、国保税を少なくするもっとも近道なのかもしれません。

## ぶ・れ・い・く・た・い・む

### 生ゴミ処理、わが家の場合

家では、流しのわきに小さな容器を置き、野菜の切れはしや皮などを入れています。たまったら流しの下のバケツに移し、ある程度たまったら庭の花壇に埋めます。流しのクズかごにたまる小さなゴミは、すでに洗剤で汚染されているので、畑や花壇には埋められません。ときどき水切りして新聞紙に包み、燃えるゴミとして出しています。

生ゴミは堆肥にしてから畑や花壇の肥料にするほうがいいのですが、とりあえずわが家ではこんなふう処理しています。町は希望者にコンポストを貸し出し、肥料化を進めたいというのですが、だれもが参加できるものではなく、臭いも出るし集合住宅では不可能です。町は各家庭が無理なく参加できる生ゴミ堆肥化の仕組みを考えるべきでしょう。



## 編集後記

夏は祭りの季節です。同時に戦争を考える季節でもあります。8月は戦争を振り返る番組がたくさんあります。5夜連続で放送されたNHKの「アウシュビッツ」は秀逸でした。この番組に触発されて、生き残った秘書の証言をもとにつくられた映画「ヒトラー」も見ました。ナチスの独裁政治はヒトラーひとりがつくりあげたものではなく、ドイツ国民とマスメディアが独裁者に熱狂し支持して生まれたものなのだと思います。

夏は、祭りのように人を熱狂させる魔力をもっているのかもしれませんが。さめた目で今の日本の政局やマスコミ報道を見る必要があると思った「私の夏」でした。

[このページのトップへ戻る](#)

[議会だよりのページへ](#)

[幸子の表紙ページへ](#)